



本多昌子

カンマームジーク コンサート by本多昌子



クリストフ・エーレンフェルナー

Vol.8 デュオリサイタル

2017年 9月17日[日] 開場13:30 開演14:00

ベートーヴェン:ヴァイオリンとピアノのためのソナタ

第2番 イ長調 作品12-2

第9番 イ長調 作品47『クロイツェル』

第10番 ト長調 作品96

出演:クリストフ・エーレンフェルナー (ヴァイオリン)

本多昌子 (ピアノ)



ヘルベルト・ミュラー

Vol.9 ハイドンとブラームスを仲間とともに

2017年 9月24日[日] 開場13:30 開演14:00

ブラームス:ヴィオラとピアノのためのソナタ

第1番 へ短調 作品120-1

ハイドン :弦楽四重奏曲『ひばり』 作品64-5

ブラームス:ピアノ五重奏曲 へ短調 作品34v

出演:本多昌子 (ピアノ)

クリストフ・エーレンフェルナー (ヴァイオリン)

山中直子 (ヴァイオリン)

ヘルベルト・ミュラー (ヴィオラ)

富岡廉太郎(チェロ)



山中直子



富岡廉太郎

会場:高輪プリンセスガルテン アンビエンテ

各回とも全席自由:一般 4,000円 学生 2,000円

マネージメント&お問い合わせ先:アコールヴィブレ株式会社 Tel.03-6909-0401

後援:日埴文化協会、一般社団法人全日本ピアノ指導者協会

本多昌子 (ピアノ)

第29回全日本学生コンクール小学校の部全国第一位。東京芸術大学卒業、東京芸術大学大学院修了。故中島和彦、杉山千賀子、故田村宏、ティニー・ヴィルツの各氏に師事。在学中第52回日本音楽コンクール入選、日本室内楽コンクール入賞、学内にて「安宅賞」受賞。1987年DAADドイツ学術交流会の給費留学生として旧西ドイツケルン音楽大学に留学当地にてリサイタルを催し、紙上にて高く評価される。

「若い芽のコンサート」NHK交響楽団と共演、芸大定期新卒業生紹介演奏会にて芸大オーケストラと共演、

1994年CD「現代日本のヴァイオリン音楽・抄」(vn.天満敦子)でピアノ共演者として文化庁芸術作品賞を受賞、これまでに昭和音楽大学、芸大附属高校非常勤講師を勤め、後進の指導にもあたっている。

クリストフ・エーレンフェルナー (ヴァイオリン)

ザルツブルク生まれ。オーストリアの若手音楽家のなかでも極めて多彩な才能を發揮し、ヴァイオリニスト・作曲家・指揮者として幅広く活躍する。最近ではドイツ・ノルトハウゼン歌劇場の招聘アーティストとして、2017年に向けてオペラ・バレエ・交響曲の作曲を手掛けている。メキシコ・シティ・フィルハーモニー管弦楽団、モーツァルテウム管弦楽団(ザルツブルク)客演指揮者。2011年から2015年まで、シンフォニエッタ・バーデン(ウィーン)の首席指揮者も務めた。作曲家としても、小澤征爾アカデミー(ジュネーブ・2013年)、ムルハウス・シンフォニー・オーケストラ(2012年)、ウィーン・フィルのクラリネット奏者、マティアス・ショーンがプロデュースする音楽祭パルムクラング(2015年)などに招聘されている。マーラー室内管弦楽団、カンマーフィルハーモニー・アマデー(アーヘン)、シモンポリバル・ユース・オーケストラ、ウィーン青少年管弦楽団、オーストリア現代音楽アンサンブルではゲスト・コンサートマスターを務める。イギリスBBC、オーストリアORF、日本のNHKやスロヴァキア放送にて代表的なソロ曲・室内楽曲を録音、フンガロトン、プライザー・レコード、パンムジカ、パラディーノ・ミュージックから6枚のCDをリリースしている。グラーツ音楽大学のオーケストラで後進の指導に当たる。ウィーン楽友協会を本拠地とするスナ・クム・ラウデ国際青少年音楽祭コンクール常任審査員。日墺文化協会名誉会員。2015年より、オーストリアで開催されるアレグロ・ヴィーヴォ国際室内楽音楽祭で、若き音楽家たちのオーケストラ・室内楽クラスの指導責任者を務める。

ヘルベルト・ミュラー (ヴィオラ)

1957年ウィーンに生まれる。1981年ウィーンコンセルヴァトリウム音楽大学を首席で卒業、その後ウィーン音楽大学にてジークフリート・フェーリング教授に師事。1980年よりウィーン交響楽団に所属。1986年首席ソロヴィオラ奏者となり、これまでにラファエル・フリューベック・デ・ブルゴス、レオポルト・ハーガー、ウルフ・シルマー、ペーター・ギュルケ、ファビオ・ルイージ、フィリップ・ジョルダンをはじめとする指揮者たちと共演。ポーランド(ヴィエニャフスキ・ルブリン・フィルハーモニー管弦楽団)、エジプト、ウクライナ、ポルトガル(ローレンス・フォスター率いるグルベンキアン管弦楽団)などを頻繁に訪れ、ソロ奏者としても国際的に活躍している。室内楽への取り組みも熱心で、長年に亘りグリンカ・アレンコフ・カルテットや、ウルフ・ヴァリンが首席ヴァイオリンを務めるウィーン・コンセルティノー室内楽団とともに、トリオからオクテットまで幅広く演奏。ウィーン・コンセルティノー室内楽団とはオーストリア国内外の音楽祭(プレゲンツ音楽祭、エンガディン音楽祭、ワロニア・フェスティバルなど)にも参加し、ヨーロッパ各国・アメリカへのツアーを行った。近年ではクレス・ミュラー・スコッチチ弦楽トリオ、ウィーン・東京カルテットで活躍し、スイスと日本でレコーディングを行った。1992年から1994年まではウィーン音楽大学にて師匠フェーリング教授の助手を務め、1994年現職ウィーンコンセルヴァトリウム音楽大学教授に就任。

山中直子 (ヴァイオリン)

東京芸術附属高校、東京芸術大学音楽学部を経て、同大学院修士課程修了。

在学中、ローザンヌ音楽アカデミー、カールフレッシュアカデミーのマスタークラスを受講。

鈴木共子、山岡耕作、矢嶋佳子、田中千香士、堀正文、浦川宜也の各氏に師事。

第31回全日本学生音楽コンクール中学の部第2位。1988、1993年にソロリサイタルを開催。

室内楽を中心に、ポップス、映画音楽など幅広いジャンルで活動を行っている。

富岡廉太郎 (チェロ)

1986年札幌市出身。桐朋女子高等学校音楽科、桐朋学園大学を経て、バーゼル音楽院MASPを修了。チェロを上原与四郎氏、毛利伯郎氏、弦楽四重奏をRainer Schmidt氏に師事。

2006年 ウェルズ弦楽四重奏団を創立。

2007年 いしかわミュージックアカデミーIMA音楽賞受賞。

2008年 ミュンヘンARD国際音楽コンクールクアルテット部門で、日本人のみで結成されるクアルテットとしては、東京クアルテット以来38年ぶりの3位入賞を果たす。

2010年 京都青山音楽賞受賞。

2011年 バーゼルオーケストラ協会(BOG)コンクールにて"ex aequo"賞受賞。

2011年 第7回大阪国際室内楽コンクール弦楽四重奏部門第3位。2012年 ドイツ・シュヴェツィンゲン音楽祭に出演、またその模様が南西ドイツ放送(SWR)ラジオにて放送される。

これまでにウェルズ弦楽四重奏団の活動や、主要オーケストラの客演首席を始めとし、国内外の多数のコンサート、音楽祭に出演。2014年6月から2017年3月まで、東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団客員首席奏者を務める。

2017年4月より、読売日本交響楽団契約首席奏者。

